

「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト実践研究協働校事業

令和3年度より、「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト実践研究協働校事業として、これからの時代に求められる資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びの視点から学習指導の改善・充実やカリキュラム・マネジメントの推進を図るための取組が進められます。

本校は、この指定事業を受け、国語科、算数科、理科、社会科、体育科、外国語科と3年間にわたって授業研究を行っていきます。今年度は、これまでの国語科の研究を継承・発展させながら、算数科を加えた研究を進め、“資質・能力ベースの授業づくり”、“主体的・対話的で深い学びの実現”、“教科等の見方・考え方を働かせる授業”など学習指導や学習過程を工夫し、授業力向上を目指していきたくと思います。また、研究主題に向けて教職員で共通理解を図りながら、これからの研究授業や前期後期に行われる教材及び授業研究会などで学んだこと、共有したことを研究通信「チーム中小」でお知らせしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

<研究主題>

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりー各教科等における見方・考え方を働かせてー

☆前期教材研究会 I ☆

5月14日(金)に前期教材研究会を行いました。授業者である小島先生の提案から本単元で身に付けたい力に向けた単元構想になっているか研究協議を行い、ご意見をたくさんいただくことができました。また、齊藤一弥先生(島根県立大学教授)の講話では、本校の研究主題に沿ったお話をしていただき、たくさんの学びがありました。その学びを先生方と共有しておきたいと思っております。

<研究協議の様子>



単元終了時に目指す姿は、本単元においては広すぎていないか。

9年間の系統性が大切！
3年生で働かせた見方・考え方を活かし、この単元ではどのような見方・考え方を働かせていくのか、また5年生にどうつながっていくのか見通した単元構想をしていく。

読み比べた後の、広告を作っていく時間が足りるのか、また児童の思考の流れが変わってしまうのではないか。

協議したことをもとに、9年間の系統性及び3年生までの見方・考え方を再度確認し、本単元、5・6年生へとつながる見方・考え方を明確にしていきたいと思います。



☆齊藤 一弥先生の講話☆

1. 見方・考え方をいかに解釈するか？

(1) 国語の見方・考え方とは

言葉と言葉、言葉と対象(今回なら広告)との関係に目をつけること(見方)、その言葉の意味、働き、使い方などとの関係性を問い直し、再構築すること(考え方)

見方・考え方のよりどころ・・・学習指導要領解説 国語編

<読むこと>

〇〇に着目し～

(2) 9年間の系統を確認することの意味

見方・考え方の成長の具体をイメージする

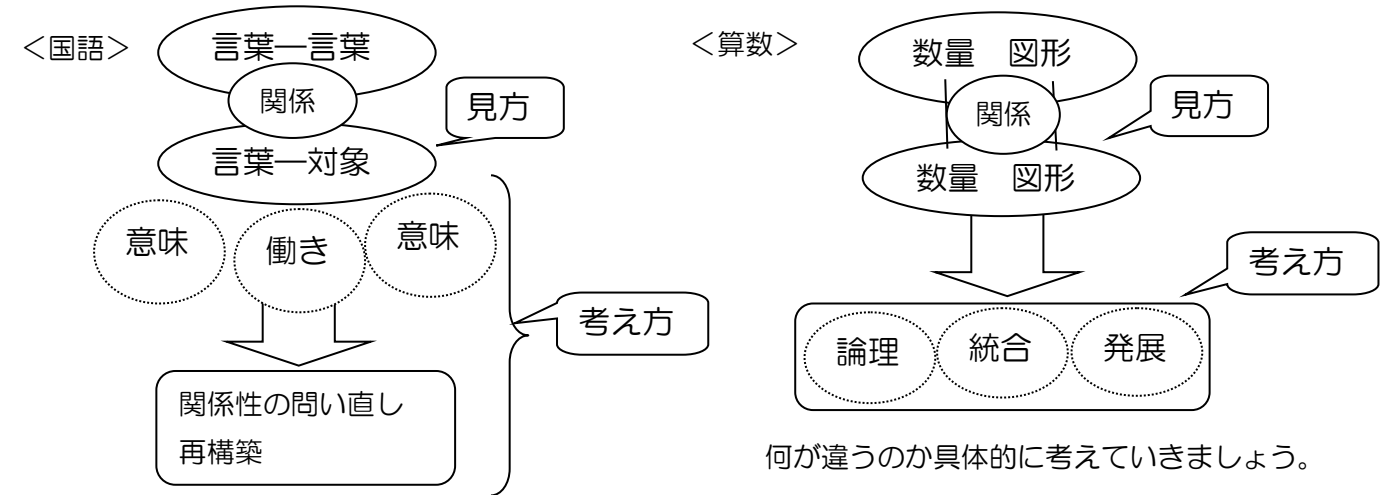
着眼点

国語らしい教材とのつき合い方



(3) 国語科と算数科との比較

国語科と算数科に共通する点は、コンテンツフリー(内容がないこと)＝能力ベース



2. 主題から方向性を模索すること

(1) 「深い学び」には、オーセンティックな学びが求められる。

- ・子どもが学びの必然性や切実性を感じるリアルな学習(価値ある学習)を設定する。
- ・子ども自身が見通しをもって進めていくことや学習を振り返りながら考えていくことが必要である。
→子どもが自分の学びを省察する { ・戻す問い「振り返りの省察」(どんなことができたか。) ・進める問い「見通しの省察」(～だとしたら、次はどういうこと?どうするの?) }

(2) これから求められる学び

- ・「個別最適化」子どもの有用さを引き出す学び
個性化…個人のゴールをもたせる。
個別化…指導の柔軟さによる個々に合わせた学習。
- ・子どもが学習計画を立て、自覚をもって取り組む。⇒子ども主体
- ・学びのプロセスの多様さ →改定前の学習指導要領からの脱却



今回の教材研究会での学びをこれからの授業づくりに活かしていきましょう。

6月4日(金)は授業研究会になっています。よろしくお願いいたします。